

まちのキラリびと

市内に90ある単位老人クラブでは、約5,000人の会員が加入・活動しています。



敦賀市老人クラブ連合会
会長 森田 一昭さん



▲女性部交流 (スティックリング)



▲市内の史跡めぐり (疋田舟川)

仲間と一緒に生きがいと健康づくり

老人クラブは、高齢者同士が集い、活動し、生活を豊かにするための団体です。主に、各種スポーツ大会や研修会、趣味の活動を行い、相互交流・健康づくりなどに励んでいます。

また「老人家庭相談員」を配置し、高齢者の訪問・相談活動を行っています。その他にも地域の見守り、防犯防災、美化清掃などの住みよいまちづくりを目指すボランティア活動にも取り組んでいます。

年を重ねると、社会との関わりが希薄になりがちですが、このような「健康」「友愛」「奉仕」の活動を通じて、高齢者たちの仲間づくり、そして生きがいづくりに寄与しています。

連合会では、こういった単位クラブの活動を支えるとともに、他団体をはじめ、市全域での交流を促進しています。

現在、会員の高齢化・ライフスタイルの変化などにより、会員が減少傾向にあります。その対策の一環として、若手会員を対象とした事業や、魅力ある事業で活性化を図っています。

同世代の人たちと一緒に、地域の中で社会参画や社会貢献をするため、町内の老人クラブに参加してみませんか。皆さんと一緒に活動できることを楽しみにしています。

まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



案内人 学芸員 中野 拓郎

出土品は3月15日まで
博物館で公開中！



▲公文名遺跡 (松ノ木海道)

▼出土した土器には何かの文字が…



公文名遺跡出土品

新発見で伝説にせまる

公文名遺跡は、栗野南小学校の南隣の奥門下地区よもんしたと、その北東にあたる松ノ木海道地区において、新しく発見された遺跡です。今から約1250年前の奈良時代の遺跡で、赤く塗られたお祭り用の土器や、鉄鉞石、文字を書いたための道具である硯すずりなど、普通の集落にはない特殊な出土品が見つかりました。

そもそも「公文名」とは、平安時代後期からある古い地名で、「公文」とは公文書を記録する地方の役人を意味し、「名」というのは名田ないうでんともいい、その場所一帯の管理を請け負う有力者の名前を指します。地方の役人といっても、地元でも有力な一族しかありませんので、この「公文名」が地名として残っていることは、長い間有力な一族がこの場所を治めていた可能性を示しています。

平安時代後期に公文名と呼ばれたこの場所、奈良時代の硯や文字を書いたお祭りの土器が見つかりましたが、この二つの時代の中間に当たる平安時代前期が、芋粥の語で有名な藤原利仁が生きていた伝説の時代にあたります。利仁が住んでいたという証拠は見つかりませんでしたが、公文名遺跡の特殊な出土品は、この場所が古代において、芋粥の話にでてくるような都の人に沢山のお土産を持たせるほどの、裕福な豪族がいてもおかしくない場所であったことを物語っています。

広報担当者のつづき

我が家では、最近おうちでカラオケが日課になってきました。ゲーム機から手軽に始められるため、子ども達にちょっと勧めたらはまったみたいです。某店舗で流れるテーマソングや人気デュオの曲など、ほぼ毎日熱唱…飽きないのかな…。という私も子どもたちが寝静まったら、小声で一人カラオケでストレス解消。(K)

取材中、お気に入りのスーツのスポンが破れました。近くにいた記者さんに教えてもらい気付けたのですが、いつの間に破れたのか検討もつきません。出先で修復できるはずもなく、その日は結局、地肌をチラつかせながらの撮影となりました。ショックと恥ずかしさのダブルパンチをくらい、今もなお引きずっています。(M)